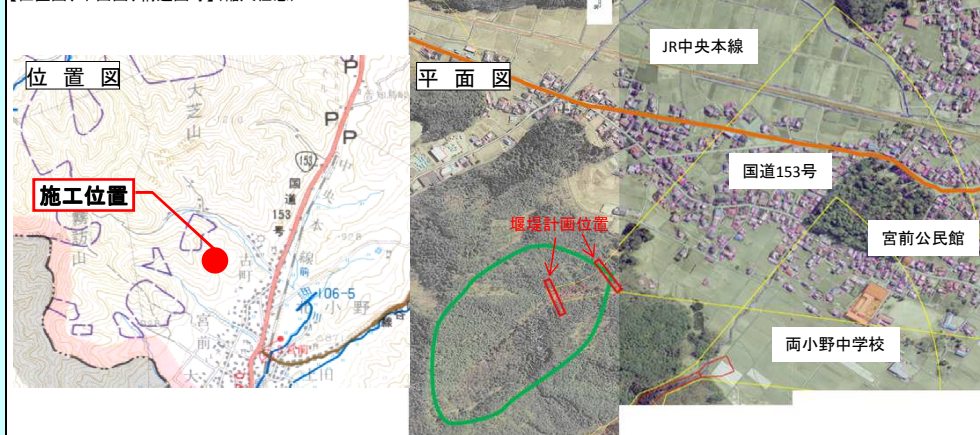


(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防(通常砂防)		路河川名等	(砂)堂の入沢						
事業毎の通番		3	市町村名	塩尻市	箇所名(ふりがな)	堂の入(どうのいり)					
事業概要	事業目的	堂の入沢は土石流危険渓流Ⅰであり、上流域には不安定な土砂が堆積し、土石流の発生が懸念されている。平成18年7月豪雨時には土砂が流出しており、保全対象には人家181戸が立地しているほか、国道153号やJR中央本線、両小野中学校等があるため、砂防えん堤を整備し、土砂災害を未然に防止する。									
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法						
	関連する事業、計画等	-									
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家181戸、国道153号、JR中央本線、両小野中学校、宮前公民館									
	着手年度	平成29年度	事業期間	9年間		事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成37年度	費用対効果	40.8		国庫	250,000	その他	225,000	一般財源	25,000
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 2基				500,000					
年度事業内容(主な工種)	測量・調査・設計				20,000	10,000		9,000	1,000		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土砂災害から人家181戸、国道153号、JR中央本線、両小野中学校、宮前公民館を保全									
	間接的効果(定量的・定性的)										
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】181戸 【保全対象公共施設】国道153号、JR中央本線、両小野中学校、宮前公民館 【要配慮者利用施設】なし 【避難場所】両小野中学校							評価	A	
	重要性	【災害履歴】平成18年土砂流出 【交通影響】JR、国道が遮断(孤立集落なし) 【位置づけ】土石流危険渓流(1ランク)							評価	A	
	効率性	【費用対効果】40.75 【事業期間】9年間 【工法等比較検討】検討あり(平成28年度 流域調査を実施) 【総合調整】調整中							評価	A	
	緊急性	【地形地質】地質がぜい弱(三紀層) 【流域植生】放置林が多い 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配7° 整備率0% 【危険区域】土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域あり							評価	A	
	計画熟度	【情報共有】関係者を中心に周知(塩尻市、地元区長) 【地域要望】要望あり 【合意形成】事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】避難訓練など今後検討							評価	C	
	部意見	当該渓流の保全対象には、人家が181戸立地しているほか、国道153号、JR中央本線、両小野中学校があり、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	流域内には不安定土砂が堆積し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあり、保全対象に人家、JR中央本線、国道153号、市道、両小野中学校があることから、必要性、重要性、緊急性が認められる。	評価結果	○	総合評価	B			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



H18年7月豪雨時の土砂流出状況



両小野中学校

事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	堂の入沢では、平成18年7月豪雨時に土砂が流出している経過があり、地元から塩尻市を通じて要望がある。保全対象には人家181戸が立地しているほか、国道153号やJR中央本線、両小野中学校等がある。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成18年の出水を受け、地元区より要望を受けている。	
③事業説明等の経緯	今後事業化の目途が立った段階で再度説明を行う予定である。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることを念頭に砂防設備の設計を進める予定である。	
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、災害のない地域づくりを推進し、地域の活性化を図る。	
⑦その他	砂防指定地申請予定	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 3' 40"
		東経:E 137° 57' 59"